

第6回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事録

日 時：令和8年2月17日(火)10:00～12:00

場 所：高知会館3階「飛鳥」

出 席：委員11名中11名が出席 ※原田アドバイザー欠席

出席委員：刈谷委員、寛藤委員、坂本委員、高岡委員、玉乃井委員、久川委員、
古谷委員、前田委員、丸委員、森委員、渡邊委員

議 事：(1) 検討会のスケジュールについて

(2) 前回(第5回)の宿題返し

・各委員の主な意見と事務局の回答

(3) 新県民体育館の整備の考え方・基本方針

(4) 基本計画の位置付け

(5) 施設計画(基本要件、機能及び諸要件、モデルプラン)

そ の 他：地下駐車場における防災対策

1 開 会

<委員長挨拶>

・他県ではアリーナ事業において資材の高騰や収支が合わないという事例もある一方で成功している事例もある。第1回の検討会でも紹介した「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック」はネットにも掲載されており、改めて目を通していただきたいが、数十年、数百億円の大きなプロジェクトであり、議論の難しさがある中で、その都度計画を見直しながら進めることが推奨されており、委員の皆さまから専門的な立場での意見が非常に重要となってくる。注目度と責任が増していると思うが、積極的な議論をしたい。

・検討会の中でも何度か話をしているが、私自身子育てする立場であり一県民の立場からしても、この検討会は県民としての疑問点を出し切る場だと認識しているので、活発な議論ができることを期待している。

2 議 事

【事務局説明(1)～(5) ※(4)についてはJV説明】

<寛藤委員>

・要望として、柔道場3面となっているが、四国大会以上になると4面必要。その場合サブアリーナも利用することとなるが、柔道の場合は畳が必要で、常設する畳と追加で必要な計4面分の畳と収納スペースをお願いしたい。2つ目として、特に大きい大会時はウォーミングアップ場が必要。現在の武道館は、1階に柔道場と剣道場が1面ずつある。柔道場と剣道場は平日の夜間には何かしらの団体が使っており、配慮をお願いする。

今まで使用していた団体が、建替後使用できなくなるとなった場合は、逆行してしまう。

⇒県) 資料5のその他に追記していく。

⇒前田委員長) 想定として4面を計画したときに現実的に可能なのか。

⇒県) 試合場としては3面を想定している。ウォーミングアップ場は諸室になり得る場所として整備し、マルチに使えるスペースという要件で設計に反映可能と考えている。四国大会等の4面以上になるとサブアリーナで開催し、武道館は練習会場になるなど、2箇所同時に使用できることも集約化のメリットであり、今後調整していきたい。

<刈谷委員>

・メインアリーナとサブアリーナの説明があったが、サブアリーナが大きくなったのはわかる。メインアリーナは既存の主競技場に比べ、新たに器具庫や諸室を整備したときに、フロア面積が小さくなり、競技に支障が出ないような安全面に配慮した計画が必要。予算も関係してくると思うが全体を見越して、高知県らしい建物を目指して、武道館なら武道館らしい入り口にするなど、来場者にわかりやすいような計画を。モデルプランのような計画は、現状よりフロア面積は大きくなっているか聞きたい。

⇒県) 既存のフロア面積は1,945 m²。モデルプランでは群馬県のオープンハウスアリーナ太田を参考にしており、2,150 m²。200 m²ほど大きい想定。

<森委員>

・木を多く使った建物を検討いただきたい。万博でも高知県の木材が話題になり、観光戦略だけでなく、いろんな場面で林業は焦点に当たり、隣接する教育施設との関係もあり、うまくいけば「全国初の木造アリーナ」等になり得る。木を大事にしていることがイメージとして伝わり、中心街から新県民体育館までの動線上に、日本初の木造アーケードである「はりまや橋商店街」があり、高知といえば木材というイメージがすり込まれ、まちづくりとして面白いのでは。

⇒県) 高知県産の木材の使用は大事な要素。次の段階で、業者からの提案に期待したい。

<丸委員>

・資料1のスケジュールで、第7回検討会の検討事項③に収支の見通しがあるが、第8回の①運営手法に大きく影響を受けると考えている。これを同じタイミングで運営手法における収支の見通しの差を比較することは重要な観点かと思う。これを分けて検討することになった理由が知りたい。

⇒県) 第4回で基本計画概要版を示したときに収支の見通しも示し、もう少し精度を高めてはという意見をいただいたところ。県の財政状況等も踏まえて、一足飛びにVIP席やセンターハングビジョンを整備することは難しいのではないかということで、まずはスモールスタートということで整備の方針を説明した。12月の試算では他県の事例

を参考にVIPラウンジの費用なども含めており、見直しが必要と考えている。また、サウンディングの再調査を実施予定であり、12月に実施した際には、配置案が1つに絞り切れていないこともあり、再調査の際には、収支の見通しも再設定した上で、実施したいと考えている。それを受けて民間企業の方に示し、整備手法を考えていかないといけない。そのため運営手法の議論の前に、収支の見通しの再設定したものを、検討会の中で示したいと考えている。

・攻めのPFIと守りの指定管理では営業の発想が全く違う。スモールスタートは賛成であるが、どこからスタートするかが肝となり、するスポーツと見るスポーツが同じ場所で行われ、かつちばさんセンターのようなMICEを検討していくならば、他県の事例にプラスアルファの深掘りした決め方が重要。例えば、ラウンジはスモールスタートにおいても必要で、MICEを考えているのならば、設計の時に水回りは必須。ハードがしっかりしているからこそ誘致可能ということになる。これはあくまで提案であるが、VIPに対する考え方やメディアの設定は、非常にありがたく、ミックスゾーンを最初から設定に入れている。ただ、興行発信力というところでは優れている一方で、するスポーツになったときに、どう代替できるか、というような余白を持った設計も必要。もう1つ、ラウンジの機能はスモールスタートにおいても必ず必要で、MICEを想定したときにキッチンの水回りは、後から付け足すと非常に改修費がかかる。ラウンジの改修費については他の事例からも聞いているので、最初から水回りを設定したほうが、ハードが整うし、誘致としても選ばれる。しっかり呼び込むためのハード設計も議論していただきたい。

<古谷委員>

・少しでも稼ぐことを考えると、駐車場は有料にするなど検討しているか。社会体育施設としての利用者は一定時間無料ということもあるかもしれないが、興行や見るスポーツの時に全面無料にすると、稼ぐどころかマイナスになる一方だと思う。今はどこの施設でも駐車場は有料になりつつある。運営には当然ながら、人手もかかり、改修・維持費や電気代、すべてがかかるので、稼ぐことを考えると、有料駐車場にしていくことも重要。

⇒県) 県においても有料駐車場の事例がかなり増えてきており、有料化も含めて検討していく。

<坂本委員>

・現有地の計画に対して、用途地域は厳しいのかあるいは十分可能なのかどうか印象を知りたい。

⇒JV) 用途地域の不適に対しては都市計画の手続きが必要。延床面積がいくらまで可

能かなど現行の都市計画で決まった範囲になるため問題ない。日影規制は、周りに住宅があるので、用途地域を変えたとしても、今後も守っていく必要がある。

・この場所で、高度利用の規制緩和の考え方を導入する価値はあるのだろうか。都市再生の関係で、最近では駅前に高層マンションができており、規制緩和の一環。この場所自体が、都市機能誘導区域から外れており、ハードルが高いかもしれないが、そういった計画があるかということと、それを検討することによって、より要求水準を満たせる可能性があるのかどうか聞きたい。都市計画決定はかなり時間がかかる。地方である場合すんなりクリアする。この場所はステークホルダーが多いので、時間がかかることが予想される。もし規制緩和をすることによって、より良いものができることが見通せれば検討する価値はある。

⇒県) この場で回答できないこともあるが、高知市や県の都市計画課ともいただいた意見を情報共有し、次の検討会では回答する。

<高岡委員>

・資料5のその他にアスパルこちらの生徒に対する文言の修正提案をしたい。例えば「隣接する高知市教育施設の教育活動や一般市民に対する文化的サービスに配慮した計画とする。」という表現へ変更をお願いしたい。

・防災については少し強調した表現で頭出しをしていただき防災面に特化した施設計画を基本要件に盛り込んでいただきたい。

・Bリーグはネクスト等のカテゴリーになると集客に苦戦しており、スモールスタートは賛成。Bリーグに対する期待感はあるが、現実としてMICEや展示会をしっかりと開催していかないと施設として機能しないので、ちばさんセンターの集約が重要。

⇒県) 今週末にはちばさんセンターのあり方検討会があり、産業振興センターとも連携し、双方の意見を共有したい。

<玉乃井委員>

・ハードの整備について、天井の吊り荷重や天井高は先に設計に入れておくことが重要。また、器具庫に加えて控え室の記載をお願いしたい。コンサートツアーの場合、出演者とスタッフで300~400名になる。大相撲の巡業においても300名の力士とスタッフという規模。イベント時を想定した控え室や会議室の導入もしっかり設計に反映を。

⇒県) 300人ぐらいのスタッフを想定したときには、例えばサブアリーナを開放していく方法もあると思う。今後設計の提案になろうかと思うので、事務局に意見をいただけたらと思う。補足として、センターハングビジョンの天井吊り荷重については将来的にも吊り下げることができる設計を確保したいと考えている。

<久川委員>

・全体的な流れの話で言うと、「社会体育施設に加えて」アリーナ機能を持たせるという方向性には賛成。スモールスタートにしても同様。ハードとしての基本的なベースは後で変更できないので、例えば、防音、防振、耐荷重等は要求水準の段階で明確にした上で基本設計に取り組んでほしい。これらは市町村が基準を持っているが、基準の数字をクリアしているからその範囲内であれば何をしてもいいというわけではない。

・防災の位置付けに関して、近所の方としては揺れが起こると新しく大きくかつ高い建物に逃げるとするのはすごく当たり前のこと。少なくとも防災備蓄を確保する場所を一時的ではなく、最初から常備しておくという考え方は、ぜひ持っていただきたいし、アピールできるポイントでもある。

・運営に関しては、手法によって大きく変わることは間違いないと思う。この先どれが一番いいかということは別の議論になってくると思うが、経費を試算していく上で、保守点検等のしっかり管理すべき経費は必ず見込んでほしい。

⇒県) 特にハードの部分は言われる通りだと思う。設計に向けて要求水準書にいただいた意見をしっかり盛り込んでいく。

<渡邊委員>

・意見がしっかり反映されている印象。現段階でいうべきことかという気はするが、プールの中に多目的な更衣室の設置は前回要望させてもらったが、メインやサブアリーナにも同様にあった方がいい。動線においてはフラットで障害者の方も過ごしやすいうように配慮いただきたい。

・最近大会に行くとカームダウンスペース（発達障害や感覚過敏を持つ方が、音・光・視線などの刺激を遮断し、パニック時やストレス時に落ち着きを取り戻すための専用休憩所）が設置されており、発達障害、自閉症の方が落ち着くスペースがあれば良い。会議室が使えればそれで良いと思うが配慮いただけると使いやすい。

<前田委員長>

・別で議論されている県立文化施設の件があると思うが、まさに今議論されているような機能に関して、ハードが持つ「経営資源」という言い方を敢えてするが、そういったものをしっかり武器として持つておかないと、誘致が難しいという議論がなされている。社会体育施設であっても、収益化は諦めてはいけなところ。改めて今の形を見ると、おそらく地下駐車場も整備するということであれば、かなりのコストがかかる。なんとか解決策はないのかと考えたときに、議論を蒸し返すつもりは全くなく、アイデアとし

て検討可能か伺うが、例えば、武道館やプールなどは、向こう 20 年 30 年を考えると周辺の学校施設等も老朽化・建て替えの議論が起こるはずであり、この向かいにある高知工業高校に社会体育施設を集約することは可能なものか。当然、アスパルこうちや高知市の土地の問題、学校の中に地域の方々が出入するものを作るのかという話も出てくると思うが、30 年とか長いスパンで考えたときには、そういった集約の仕方、現有地はできるだけ収益を上げていく議論の余地を残しておく必要があると思うが、そういった議論ができるものなのか。

⇒県) この検討会ではなかなか難しいと思う。工業高校に他の施設を持っていくとなると、今現在かなりの生徒数があるので、グラウンドなどを使うとなると、学校体育授業や、部活動にかなり影響が出てくる。1つの手としては考えられないことはないと思うが、今この検討会でその話を進めることは難しい。やはり今の現有地で最大限どういう工夫ができて、使えるようにしたほうがいいかを検討いただきたい。

⇒前田委員長) 建替のタイミングだけを見るとそういう答えになると思うが、できるだけ長期的な目線で議論ができないかを考えながら進めていくことが必要と思う。専門の立場から意見を聞くと本当にこの敷地に入るのかという疑問があるが、資料 4 で説明いただいたように、この計画の段階ではそこまで数字や詳細の部分は決定しないということであるが、敷地が十分にあれば、こういう議論でいいと思うが、例えば数字やデータで機能が敷地に入るというものを出示していただかないと、やはり設計でだめだったという話にならないか心配。どうしてもこの計画の段階で進めることができないものか。

⇒県) これについては事務局及び J V では、予定している計画は敷地内に入ると想定している。実際は設計で具体的にどういうものになるかによって変わってくるが、今県民体育館やちばさんセンターのイベントに必要な机や椅子を調査しており、足りない部分はレンタルという選択肢も視野に入れて運営上の工夫でカバーできないかと思っている。競技団体や関係者などからもヒアリングをしていきながら決めていく。

・今の新県民体育館における将来的なビジョンと、そのビジョンに対しての戦略を立てることは誘致や大会運営に関しても非常に重要なポイントと思う。そこを一緒に議論していただくことをお願いしたい。

【その他（地下駐車場における防災対策） ※ J V から説明】

<古谷委員>

・地下駐車場を整備し浸水した場合の復旧時間はどのくらいかかるのか。過去の災害（大津水害）ではあっという間に浸水し、地下駐車場となると同様のことが懸念されるが。

⇒ J V) 復旧時間については手元に資料がないので、改めて事務局を通じて報告する。

<坂本委員>

・一番問題なのは、個人の資産。今後に備えて個人の資産を守るため災害が多い時期や災害が発生しそうな場合、地下駐車場に入らないようにするとか、そういったことももしかしたら必要ではないかと思う。時には空振りもあり不便は当然出てくるが、地下駐車場を空にすることによって、個人の資産を守り訴訟問題を避けることができるので、運営等にそういう考え方があってもいいと思う。

<丸委員>

・駐車場に関しては、補償の部分が気になっていたので同意見。建設コストが懸念される中で、あえて地下駐車場や建物の嵩増しを計画に入れるとなると、当初に比べていくらの増額予定か。

⇒県) 基本計画の概要版を示したときの資料で、全体事業費としては地下駐車場も含めて210億円という数字を示した。そのうち地下駐車場整備の部分を抜き出すと約16億円という見込み。事務局として地下駐車場に必ずしもこだわっているわけではなく、一定の駐車台数を確保するとなると、平面だけでは難しいということで、立体駐車場も含めて事業者から設計段階で提案が出てきたときには、その必要性や妥当性を審査の中で評価する形になるかと思う。そういう意味では、地下駐車場の選択肢も含めて、駐車台数を確保するという方針。

・立体になるとどれぐらいコストは違うものなのか。

⇒県) 試算できる範囲で示していく。

⇒JV) 立体は高さが出てくるので近隣への日影規制の問題が生じ、物理的に困難が予想される。敷地については細長い形になっており、利用者のことを考えると均等にアプローチができる地下が利用としては良いと考えている。コストに関しては地上の方が断然安い、計画としては地下にあるべきとして、その上でいかにリスクを排除できるかが今の計画での考え方。

<森委員>

・今後のスケジュールで、新県民体育館の検討会を3月末のところ5月に向けて取り組み、ちばさんセンター集約化の検討が3月まで。その後評価していくということで、3月には集約の見通しを出していくとあるが、ちばさんセンターのホールが集約された場合とされなかった場合のAプランやBプランが必要かと思う。その中でスモールスタートの話や地下駐車場の話もちばさんセンターが集約されなければなくなるかもしれない。いずれにせよ現有地で、社会体育施設とアリーナ機能を検討していることがこの会議でどんどん発信もされており、県民の皆さんも含め、多く夢を持っていると思う。前向

きに計画し、実現に近づいていく方向に進んでいければ。

⇒県) ちばさんセンター大ホールを閉館しないといけないというわけではなく、新県民体育館を整備した場合に、ちばさんセンターの大ホールで行っているイベントを受け込むことが可能という考え方。利用シミュレーションで示したように、現在行われているイベントを受け込んだとしても日数は問題ないと想定している。ちばさんセンター大ホールを閉館するかどうかは別問題であり、それはちばさんセンターのあり方検討会で議論される。

<前田委員長>

・ここまでの話だと、コンクリートの床でちばさんセンターのイベントを行いながら、一般的な県民利用を行うことは非常に難しいところがあり、あなぶきアリーナの例もそうであるが、フローリングパネルの設置や撤去費用、収納する倉庫が必要と思うが、ちばさんセンターのイベントとの折り合いをどういうふうに整理されているのか。

⇒県) あなぶきアリーナは年間10週間木製のフローリングパネルを敷くという決まりで運営。そこには学生の大会などをしっかり開催するという狙いがあり、その期間に競技団体が大会の調整をしている。定められた期間においてパネルの設置や撤去費用は指定管理料に含まれており、それ以外の利用となると事業者負担という整理。このような事例を元に県でも検討する。

<玉乃井委員>

・地下駐車場はコストに対してリスクが多い。ウォークアブルシティを目指すのであれば、中途半端な駐車場を設けてしまうと、コンサートの開演直前に来て敷地内に駐車できないとなると近隣のコンビニに駐車したりなどのクレームや余計な警備員の配置等があり、懸念も多い。

⇒県) 例えば、コンサートの時には、地下駐車場はスタッフや関係者に限定したり、開放する駐車台数を制限するなど事例なども集めながら、どういう対策ができるのか検討していく。

【委員長まとめ】

・今回モデルプランが示され、様々な懸念点が見えてきたという理解。冒頭からも述べているが数十年先を見据えた計画はかなりの検討が必要。できれば今後30年40年ぐらいで、県内の施設でどこが老朽化してくるのかも戦略的に整理しておくべきではないかと改めて思ったところ。最初に複数の委員から意見があった通り、かなり狭い場所にいるような機能を入れていくことにより取捨選択が出てきたとき、どういった判断で整理されるのかについては明文化しつつ進んでいくべき。県民に対しての説明においては、今パネル展示やアンケート、報道で発信されているところと思うが、今回の考え方など意

図が伝わっていないところがある。当初はプロスポーツやコンサートが強調されており、スモールスタートという話も今後伝えていかなければならない。事業費がかなり大きく、今後運営を想定していくときにはどこでその事業費を回収していくのかという考え方が必ず必要。これは社会体育施設でも同じ。その数字に関して、見せ方や検討を進めていくことを希望したい。次の会は3月ということで引き続き議論を続けていきたいし、冒頭では毎回再確認をさせていただきたいが、この計画は建てた時の話ではなくて20年30年というスパンを見据えた計画であるということなので、ぜひそういうビジョンで進めていただきたい。

<事務局>

・先ほど委員長がまとめたように、すべての懸念事項が盛り込めるかという物理的に難しい面もあり、コストにおいても難しい面があるかもしれない。そうしたところについては、県が基本計画を策定し設計に進めていくので、競技団体の皆さんと個々に協議を重ねながら、適切な配置を決めていきたいと思うので、ご理解いただきたい。また、言われたようにプロスポーツとコンサートが先に強調されていた部分があると思う。今回、そういったところもしっかりフォローし、社会体育施設にアリーナ機能をプラスしていくという方針も出し、スモールスタートで進めることも示した。今後この基本計画を取りまとめていく段階で、パブリックコメントを実施することも考えており、検討会の中で議論された主なポイントを、県民の皆様にもご覧いただき、理解を深めていただくような取組を我々もしていく。次回3月24日では懸念される収支を中心に資料を示し意見をいただきたいと思う。

3 閉会